

**一般社団法人日本呼吸療法医学会
2017 年度（第 40 期）第 3 回理事会 議事録**

日 時：2018 年 6 月 23 日（土）14：00～17：00

場 所：天童ホテル（山形市）

出席者：川前金幸（理事長）、藤野裕士（副理事長）、今中秀光、大塚将秀、志馬伸朗、
蝶名林直彦、西田 修、竹田晋浩、神津 玲、森松 静、山本信章（各理事）、
落合亮一、橋本 悟（各監事）

欠席者：小谷 透、布宮 伸（各理事） [敬称略]

陪 席：山崎由華、小笠原聡（事務局）

【開 会】（川前理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席があることが報告され、開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録（案）の確認・承認（川前理事長）

- ・前回議事録は、原案通り承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 5 件、連絡 4 件）決定事項の承認（川前理事長）

- ・審議 5 件、連絡 4 件の決定事項をすべて確認した。
- ・No.40-9：アバロン・カニューラの合併症報告について、竹田理事より、ECMO プロジェクト（日本集中治療医学会＋日本呼吸療法医学会）と日本経皮的心肺補助研究会との合同で実施することになったことが報告された。

3. 事務局からの報告（大塚理事）

- ・会員動向について、総じて医師会員数はここ数年でほぼ増減なく推移している一方、他のメディカルスタッフ会員数は微減していることが報告された。
- ・学術集会の演題発表資格を非会員にも広げた影響を調べるため、2009 年以降の会員数・演題数・学術集会参加者数の推移を調査した。当初、非会員でも演題発表が可能となることで、会員数増加は期待できないが、演題数および学術集会参加者数は増え、翌年以降 1 年限りのつもりで入会した会員が会費未納となることで決算に与える悪影響の減少が期待された。
- ・結果としては、非会員に演題発表資格を認めたことと、学術集会の演題数・参加者数、学会員数に目立った関連は見られず、演題数・参加者数は各学術集会の時期・場所・内容などに左右される結果となった。
- ・一方、資格喪失退会者数にも目立った減少は見られず、会費未納や行方不明会員数の削減といった効果はあまり認められなかった。
- ・学術集会の発表を会員に限るかどうかの問題は、継続審議とする。

- ・2017年度の会費納入状況は、おおよそ85%であった。
- ・賛助会員は、2018年度からパラマウントベッド社とマリクロットファーマ社が入会し、一方、東機質が退会して計12社となった。東機質の退会理由に関する情報は明らかにされていない。

4. 学術集会報告・準備状況

1) 第39回学術集会余剰金審議の報告（川前理事長）

- ・学術集会開催援助費200万円は前年度に学術集会会長宛に支給し、学術集会後に会長より本体会計に返金する。
- ・援助費返金後、公認会計士が概算税額を算出する。
- ・概算税額を控除後、
 - ①余剰金がある場合、25%を学会本体会計へ繰り入れ、75%を学術集会会長の所属する公的受け入れ機関へ寄附する。
 - ②赤字の場合は本体会計で補填する。
- ・災害時・有事の場合は、理事会で協議し、立て直しをはかる。
- ・決定した上記の内容を、内規に明文化することとなった。

2) 第40回学術集会準備状況（竹田会長）

- ・プログラムが決定し、参加申込受付を開始することが報告された。

3) 第41回学術集会準備状況（藤野会長）

- ・2019年8月3日（土）～4日（日）大阪国際会議場で開催する。
- ・テーマとチラシデザインが決定したことが報告された。

4) 第42回学術集会準備状況（志馬会長）

- ・2020年6月27日（土）～28日（日）国立京都国際会館で開催する。

5. 事業報告

1) 医師向けセミナーBasic・Advancedの報告（大塚理事）

- ・講師選定や運営面などで改善を重ねてきた結果、アンケートの評価で前年度に比べて高い満足度を得られたことが報告された。

2) ECMO シミュレーションラボ第11回千葉開催報告（竹田理事）

- ・大変好評で、委員長を中心とした運営体制も回を重ねることに整いつつあることが報告された。次回は2018年8月末に藤田保健衛生大学で開催する予定。
- ・参加施設の選定は、以前は先着順だったが、現在は参加申込受付後に委員会で検討して決定している。将来的には、プロジェクトに未加入のチームも参加できるよう検討している。
- ・本年11月の第37回蘇生学会（山形・川前会長）でもECMOシミュレーションラボを実施することが報告された。

6. 各委員会報告

- ・各委員会から提出された委員交代について、本理事会で承認された。

1) 将来計画委員会（川前委員長）

- ・日本集中治療医学会学術集会会期中の 2018 年 2 月 23 日（金）に遠隔医療研究会を開催し、出席者各位が遠隔医療に関する自身の取り組みを発表したことが報告された。好感度の高い発表を中心に、第 40 回学術集会で特別企画『呼吸管理におけるこれからの遠隔医療のあるべき姿』（8/4（土）9～11 時、第 4 会場）を開催する。
- ・日本集中治療医学会でも高木俊介委員長のもと、遠隔 ICU 委員会（AdHoc）が発足した。

2) 人工呼吸編集委員会（藤野担当理事）

- ・『人工呼吸』第 34 巻第 2 号（2017 年 11 月）、第 35 巻第 1 号（2018 年 5 月）の発行実績と、第 35 巻第 2 号（2018 年 11 月）、第 36 巻第 1 号（2019 年 5 月）の企画案が報告された。
- ・2017 年度『人工呼吸』論文賞として 3 名が推薦され、本理事会で承認された。第 40 回学術集会会員懇親会で表彰する。
- ・ユーザーレポート・広告の掲載状況が、第 33 巻（2016 年度、5 社・5 件）に比べて第 34 巻（2017 年度、10 社・7 件）で改善されたことが報告された。

3) 代議員審査委員会（西田担当理事）

- ・2018 年 1～2 月末の期間で 2 年に一度の代議員＜更新・新規＞申請を受付けた。審査の結果、更新 87 名、新規 13 名、合計 100 名の次期代議員候補者一覧が提出され、持ち回り理事会で承認された。

4) 小児在宅人工呼吸検討委員会（今中担当理事）

- ・2017 年度の『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』販売報告が行われた。収支は、収入：8,472,692 円、支出：4,464,886 円であった。
- ・第 40 回学術集会中も、受付付近にブースを設け直接販売を行うことが報告された。
- ・執筆、販促、発送、在庫管理など、本マニュアル製作にかかわった委員等への慰労について検討することとなった。

5) セミナー委員会（大塚担当理事）

- ・2017 年度のセミナー決算が報告された。学術集会会期中の実技セミナーは、構造的に赤字とならざるを得ず、継続について一度検討するとの報告があった。
- ・医師向けは、前年度から内容の見直しを行い Basic と Advanced を 2 回ずつ実施したが、特に 2 回目の Advanced の集客に苦戦し、来年度の 2 回目の Advanced 実施は状況をみて検討することが報告された。
- ・現在、医師向けセミナーの開催案内を全国の研修指定病院等の病院長、医局長、安全管理室長宛に送付しているが、他学会などのネットワークを通して広く周知していくことが報告された。講義内容に関するアンケート結果は概ね良好であり、開催の縮小ではなく周知方法の改善で受講生を増やすことを検討していく。

6) チーム医療推進委員会（大塚理事）

- ・2017 年 8 月に実施した RST 実態調査アンケート結果について、『人工呼吸』第 35 巻第 1 号（2018 年 5 月）に『委員会報告』として掲載したことが報告された。

- ・ 今後は、多職種のための認定制度設置について検討を行っていく。

7) 人工呼吸管理安全対策委員会（志馬担当理事）

- ・ 次期委員長に中根正樹先生が推薦され、本理事会で承認された。
- ・ 人工呼吸器の作動停止事例情報（2017 年 7 月～2018 年 5 月）について、以下のとおり報告された。

情報提供数：6 件（実害なし 5 件、後遺症あり 1 件）

（アラーム鳴動 4 件、停止に気づいたもの 1 件）

- ・ 作動停止事例については、委員会内での情報共有や情報開示の方法などについて、改めて次回の委員会で審議することとなった。また、ECMO に関する安全対策についても次回の委員会で審議を行う。
- ・ 近年の高流量酸素療法の急速普及を受けて、高流量酸素療法に関するガイドラインなどの作成について、次期委員長を中心に審議を行うことが報告された。
- ・ 本会が入会している医療安全全国共通行動の総会に志馬担当理事が出席した。人工呼吸に限らない医療安全管理者の認定に関して、従来は 5 日間の講義受講が必要であったところ、今後は E ラーニングを導入して認定の門戸を拡大する方針であることが報告された。

8) 専門医委員会（藤野担当理事）

- ・ 呼吸療法専門医・研修施設の 2017 年度＜更新・新規＞認定結果について報告された。
- ・ 海外留学などの空白期間救済措置として専門医制度規則第 17 条、また、呼吸療法専門医更新要件改定のため専門医制度施行細則第 14 条の以上 2 点の改訂案が委員会から提出され、持ち回り理事会 No.40-6 で承認されたことを確認した。専門医制度規則第 17 条については定時社員総会に諮ることとなる。
- ・ 従来年に 2 回（6 月、9 月）の開催であった専門医委員会を、筆記試験合否判定や筆記試験問題・解答・解説の作成・WEB 掲載が新たに必要となるため、年に 3～4 回（6 月、9 月、12 月、3 月）に増やす要望について理事会で承認されたことが報告された。
- ・ 代議員宛に、7～9 月の呼吸療法専門医新規受付に際して、多数の申請に協力していただくよう委員長・担当理事名で案内を送付したことが報告された。
- ・ 呼吸療法専門医更新要件を改訂し、学術集会会長に更新点数が取得できるプログラム設置を依頼し、第 40 回学術集会では呼吸療法専門医更新講習を 2 コマ設置されたことが報告された。

9) 危機管理委員会（大塚理事）

- ・ 新興感染症に関する目立った情報はなく、引き続き、厚労科研 MERS 研究班、AMED 鳥インフルエンザ研究班などの外部組織の情報などを適宜確認し、新興感染症対策に備えていくことが報告された。

10) ECMO プロジェクト委員会（竹田担当理事）

- ・ ECMO 管理に関するいわゆる Redbook について、ECMO 治療をめぐる環境変化に伴い、日本国内が 1 つとなって改訂版に代わるものを製作する見解が示され、委員

会で審議することとなった。

11) 利益相反委員会（西田担当理事）

- ・高額機器の無償借用について議論が行われる中、臨床研究法が施行となり、委員会で COI 指針改訂案を作成したことが報告された。

12) 学術委員会（大塚担当理事）

- ・次期プログラム作成 WG（藤野会長）と連携し、第 41 回学術集会の企画立案を行うことが報告された。
- ・ヒト対象の研究に関する倫理指針について、次回の学術集会演題募集要項では、倫理審査承認を受けたことについて明記することを求める周知文を掲載し、『倫理審査を受けた』というチェックボックスを設けることが報告された。『症例報告』では、口頭または書面で本人または家族の了承を得たことについて確認することも検討する。次々回以降は、正式な演題採用条件とする方向で検討を行う。

13) 社会保険委員会（蝶名林委員長）

- ・ハイフローセラピーの使用状況に関する活動が報告され、平成 30 年度診療報酬改定結果についても報告された。
- ・内保連または外保連への加盟に関する要望が委員会から提出され、審議を行った。

14) 財務委員会（蝶名林委員長）

- ・毎月の支払承認、2017 年度予算策定、決算報告、2018 年度予算策定など、事務局と連携して行ったことが報告された。

15) 倫理委員会（大塚理事）

- ・2017 年 11 月に実施した倫理に関するアンケート結果を総会で報告するとともに、第 40 回学術集会で委員会報告『呼吸療法における終末期医療と人生の最終段階における医療との問題点』（8/4（土）10：30～12：00 第 5 会場）を実施することが報告された。

16) ARDS 診療ガイドライン作成委員会（橋本委員長）

- ・ARDS 診療ガイドラインについては 4、5 年ごとに改訂を検討していることが報告された。現在は、これまでと同様に日本呼吸器学会と日本集中治療医学会との 3 学会合同で準備委員会開催を検討している。しかし、3 学会合同での作成は過去の経緯を考えると再考すべき点が多く、委員長の人選や作成手法など調整が重要である。
- ・本会としては準備委員会には参加し、引き続き情報収集を行っていくことを本理事会で決定した。改訂に関する方針を見定めただうえで、予算計上について審議を行う。

17) 医工連携ワーキンググループ（西田担当理事）

- ・WEB 上で行っている『医工連携アイデア募集』の応募数が 2017 年度は 0 件であり、本 WG の存続について議論が必要であるとの見解が示された。討議の結果、いったん本 WG の活動を終了する方針を決定した。

18) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（今中担当理事）

- ・今年度の活動は低調であった。これまでの活動報告の提出を依頼し、本 WG の継続判断を次回の理事会で行うこととなった。

- ・第 40 回学術集会で自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ報告(8/4(土) 14:00~15:30 第 6 会場)を実施することが報告された。

8. その他

1) RST プロジェクト RST 認定・登録進捗状況(蝶名林理事)

- ・2018 年 3 月から、本会と日本呼吸ケア・リハビリテーション学会のホームページで RST 登録申請の受付を開始したことが報告された。RST プロジェクトで施設を審査して認定証を発行し、認定施設の情報入力 ID 通知書を UMIN から発行する。2 学会で RST-REG 登録システム開発費の 25 万円を折半する。
- ・登録期間は 3 年くらいを目処とし、RST プロジェクト内で分析を行う。

2) 次回理事会について(川前理事長・竹田会長)

8/3(金) 13:30~15:30 に
東京ドームホテルで開催予定。

II. 審議事項

1. 代議員審査<新規・更新>2018 について

- ・持ち回り理事会 No.40-8 で承認されたことを確認した。

2. 『人工呼吸器ハンドブック』について(川前理事長・藤野担当理事)

- ・丸川名誉会員から提案のあった人工呼吸器ハンドブックの改訂版製作について、旧版の内容を確認した。本会の領域に重要な書籍であるものの、本会単独での改訂版製作は困難が予想されたため、日本医療機器工業会の人工呼吸委員会に協力を仰ぎ、協同製作について承諾を得たことが報告された。
- ・本会の委員は藤野理事、内山編集委員長、相嶋編集委員(CE)、山本理事(CE)の 4 名に決定し、8 月末に日本医療機器工業会人工呼吸委員会との第 1 回合同委員会に出席することとなった。そこで改訂版の目次を決定し、執筆依頼~グラ作成~著者校正を経て 2019 年 8 月の第 41 回学術集会を目処に刊行できるよう製作を進めることが報告された。
- ・各論(機種ごとの解説)については、現在使用されている機種のすべてを対象とすることを原則とし、誌面の体裁の統一を図るよう合同委員会で提案する。搭載された機能毎に○×を付した一覧表を設け、読者の利便を図ることも検討する。

3. 各委員会からの審議事項

1) 呼吸療法専門医・研修施設などについて(藤野担当理事)

- ・呼吸療法専門医研修施設の 2018 年度<更新・新規>申請の受付が 4~5 月に行われ、専門医委員会で検討した更新 3 施設、新規 9 施設の全て認定が、本理事会で承認された。
- ・研修施設不在県の問題を解消するため、施設不在県にいる呼吸療法専門医、代議員、会員宛に研修施設新規申請を依頼した。代議員と会員が専門医資格を持たない場合には新規専門医書類審査後、委員会で検討し、呼吸療法専門医資格を暫定付与することで各施設を研修施設として認定する案が提出され、本理事会で承認された。な

お、暫定専門医資格の更新については通常通りとする。

- ・ 2018 年度の筆記試験に向けて、現在開示している筆記試験の全項目にそれぞれ“解説”作成し、7～9 月の呼吸療法専門医申請期間中に“解説集”を PDF で会員専用ページに掲載し、新規申請者に筆記試験範囲として告知する案が提出され、本理事会で承認された。“解説集”は書式統一のための編集を行い、編集費は『専門医等運営費』から拠出することが承認された。PDF はダウンロード可能とすることとした。
- ・ 上記の“問題・解答・解説”作問に伴う費用（参考書の購入など）についても、上限を設けて予算から拠出することが承認された。

2) 専門医委員会アンケート結果の学会 HP 公開について（藤野担当理事）

- ・ 本アンケート結果を『人工呼吸』の委員会報告として執筆するよう委員会に提案することとなった。

3) 利益相反指針改訂案について（西田担当理事）

- ・ 臨床研究法施行に伴い、委員会から COI 指針改訂案が提出され、本理事会で承認された。定時社員総会で報告を行う。

4) 内保連あるいは外保連への加盟について（蝶名林委員長）

- ・ 内保連または外保連への加入について審議を行い、内保連への加盟申請を行うことが本理事会で承認された（年会費 20 万円）。

4. その他

1) 第 28 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会共同企画

- ・ 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会から共同企画案について依頼状が届き、本理事会で承認された。